

献呈の辞

渥美幸雄先生のご退職に寄せて

専修大学経営学部での研究、教育に、20年間の長きにわたってご尽力いただいた渥美幸雄先生が、2023年（令和5年）3月末日をもって定年でご退職されることになりました。約束ごととはいえ、渥美先生が本学の教壇を離れることは非常に寂しいものがあります。ここに渥美先生のご略歴やご足跡、そして本学への貢献をご紹介します、衷心より感謝の意と惜別の念を表したいと思います。

渥美先生は、1952年4月にお生まれになり、1975年3月に慶應義塾大学工学部電気工学科をご卒業なさいました。さらに、1977年3月に慶應義塾大学工学研究科電気工学専攻で修士課程を修了、2002年3月には広島市立大学情報科学研究科情報科学博士課程を修了され、博士（情報工学）を授与されています。また、長年、日本電信電話株式会社（NTT）でのご勤務をなされ、電気通信研究所、超高速ネットワーク・コンピュータ技術研究所、株式会社NTTドコモでのご勤務を経て、2003年（平成15年）4月より専修大学にご入職されました。企業勤務時代のお仕事は、前半が通信ソフトウェアの開発、中盤が通信プロトコルの研究、後半がモバイル・インターネットのあり方の研究だったそうです。

研究面では、モバイル情報通信システム分野の第一人者として、長年にわたり学界に多大な貢献をしてこられました。これまで、書籍は5冊以上、論文も10本以上を執筆されています。研究成果の外部発信も積極的に行っており、学会報告の数は40回を超えています。これらの研究業績は学会で高く評価されています。

教育面でも、渥美先生は本学の学生に対して非常に熱心な指導を行ってこられました。なかでも、渥美ゼミナールは2007年から昨年までの長期間にわたり、公立はこだて未来大学の理系の学生と携帯電話向けアプリ開発に関する文理合同プロジェクト活動を行ってこられました。サービス・モノづくりの全体の流れ、とりわけ作る側の作業を理解してほしいとの願いがあったそうです。文理の壁を超えた取り組み及びその成果は新聞（読売新聞、神奈川新聞）でも大きく紹介され、本学の対外的な評価向上に大きく貢献しました。渥美先生が着任してからの20年間、渥美ゼミナールからは、文理融合の志を持って社会で活躍できる学生が多数巣立ちました。一方で、ゼミナールではときにキャンパス近くの岡本太郎美術館や日本民家園を見学することもあったようです。文化に触れる機会を作りたかったとのことでしたが、全体を俯瞰しながらバランス感覚に優れた渥美先生のお人柄を表しているように思います。

渥美先生は本学の行政面でもご尽力されました。情報科学研究所所長を4年間の長きにわたり務めたほか、eキャンパス推進委員会委員、大学院委員会委員、障がい学生支援推進委員会委員、就職指導委員会委員ほか数多くの役職を担当し、全学的にも本学の情報教育の構築に尽力されてこられました。

このように、渥美先生の教育、学内行政、そして研究における業績は大変顕著なものがあります。お人柄も温厚かつ好奇心豊かで、在職期間を通じて総合大学ながらの異文化の先生方との交流を楽しまれたそうです。このようなご功績に対して、専修大学経営学部は、教授会において、満場一致

で渥美先生を専修大学名誉教授に推薦させていただきました。

ここに、渥美先生からさまざまな形でご指導をいただいた後輩教員の最近の成果を募り、「専修経営学論集第115号」を『渥美幸雄教授退職記念号』として渥美先生に献呈し、経営学部教員一同、衷心から深甚なる感謝と惜別の意を表する次第であります。渥美先生のご退職後のご健勝とご活躍を祈念するとともに、本学および本学経営学部にさらなるご指導、ご検証を賜りますようお願い申し上げます、これまでの御礼のことばとさせていただきます。

令和5年3月

専修大学経営学部長 青木章通